

「 さ さ え 」

2010年10月発行 情報誌 第33号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所:福岡県田川市伊田4395(福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター - 内)

TEL/FAX: 0947 - 42 - 2286

E - mail npo-fukusiyounet@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/npofynet/enter.htm>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします

床ずれ防止ハイブリッドエアマットP・Wave



介護保険貸与対象商品

本製品は福岡県産炭地域
振興センターの助成を受け
て産学官で共同開発した
商品です。

特長

床ずれが一番発生しやすい腰周り部分だけが膨縮するエアマットタイプ。
部分的なエアマットなので浮遊感が少なく寝心地がとてもよい。



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい…」

社会福祉の国際比較において何を学ぶのか 中国の大学での対話を通して

NPO 福祉用具ネット理事長 豊田謙二(熊本学園大学教授)

この夏、9月初旬に中国の大学において「社会福祉学」を主題として、学生との対話を試みた。学生は日本語科に所属、少なからず日本語を学びつつ日本の文化をも修得している。その学生諸君に、崩壊しつつある現代の「福祉国家」について、具体的には日本の現代文化としての社会保障についてともに考える機会を得たい、と思ったのである。

できるだけ具体的に、そして身近な問題としてイメージできるテーマを中心に授業を構成した。3日間の連続した集中講義なので、事前に構成した授業内容を紙の資料とパワーポイントを併用しつつ、とくに社会福祉の基本概念について説明し、その概念を巡る議論を期待した。結果的にはその目論見は失敗した。

最初のテーマは「児童虐待」とした。日本の学生はこのテーマに鋭く反応し、自分なりの意見を持ちたいと努力する、そういう学生の姿勢を既知として中国学生の固有な発言を期待したが、空振りに終わった。そもそも「児童虐待」のない国であり、むしろ「一人っ子政策」がもたらした過保護こそが、どちらかといえば中国では問題とされているからである。学生は質問や意見を述べる前に「児童虐待」を想像できないのである。

それでも授業では活発な意見が出された。最終日に提出された質問のなかから二つを紹介し、その質問の有する普遍的意義について考えてみたい。ここにいう「普遍的」とは、それぞれの国の具体的なものを貫いてどの国にも共通しうる抽象的なもの、と予め注釈しておこう。

さて一つは、個々人の生活はさまざまな事件や事故に遭遇しているが、社会保障制度は社会保険料や税を投入しながら、どこまで一人ひとりを救済できるのか、という質問である。この問題は高負担高福祉の北欧型社会福祉、NGO/NPO などの公共性に軸を置く中欧型社会福祉、あるいは自己責任によるアメリカ型市場経済、その生活形態の差異にも関連する。私は社会福祉を今日の受動型から参加型へと転回すべきと考えているが、給付の保障とともに、参加型において人は初めて、他者と言語と活動によって交わり、自己性を確立しうるからである。

もう一つの質問は、中国には年金・医療・労災・雇用の保険制度はあるが、介護保険はない。家族が介護できるのに、なぜ介護保険制度が必要なのかという点である。家族の絆の強い東アジア圏では家族介護の課題は極めて重大なテーマである。介護が必要になった時、どこに住むかとだれの介護を求めるかは、別の課題である。重要なことは在宅重視であり、家族介護への支援の保障である。ここでは詳しく述べられないが、認知症のある人が在宅で生活を継続するケースを想定していただければ推察していただける。それはドイツでの先例に学ぶことでもある。

わが国では、在宅での家族介護の伝統を軽視して介護サービスへの勧めを説いた。これで家事はサービス化、つまり家事の外注化が完成する。他方では、家族介護にこだわりながら介護者への支援は皆無である。こうして、自己負担を伴う介護サービスを回避する介護に高齢者虐待の素地が形成される。中国は家族介護を基本とする「家」の伝統がある。だから、学生には介護保険制度の正当性について問うたのである。

私は、社会福祉をドイツ、日本、そして中国の3ヶ国のなかにおいて、考察しようとしている。その考察の目的はそれぞれの法制度の比較ではない。それぞれの社会的支援を一人ひとりの生き方から検証するのが目的である。在宅での「一人暮らし」を支えること、ここに要諦がある。わが国の崩壊しつつある社会福祉の再建には、そうした普遍的な考察が必要に思えるのである。

自動採尿システム【尿吸引口ボ ヒューマニー】を上手に使うために

その4 男性パッドの当て方について

NPO福祉用具ネット 事務局 大山 美智江(看護師)



尿吸引口ボ「ヒューマニー」

男性パッドの工夫例

図 1

姿勢や性器の長さなど使用条件がありますが、上手に使用できている方もいます。



ヒューマニーの採尿パッドは一種類しかありません。しかも、現在のパッドは主に女性をターゲットとして発売されたものです。ところが、ヒューマニーが、いざ発売されてみると予想以上に男性の利用者がとても多いことがわかりました。もちろん、男性のご利用者様も女性と同様の当て方で上手に採尿できている方もたくさんおられます。しかし、中には試したが失敗をしてしまった方もいらっしゃると思います。

男性の排泄の課題は

陰茎部のサイズがそれぞれに異なること、これまでの排泄習慣が個々によって違うこと、女性のようにフィッティングを強くすると尿道を圧迫されて排尿し辛くなること……などの理由や、不快感などの要因から「いじり」の問題なども起こることで、

尿道口がオムツ内から方向が大きくずれると大量の尿漏れになります。このような男性特有のオムツの問題は予想以上に介護の現場で問題となっていたのではないのでしょうか。私が現場の介護職の皆様にはヒヤリング調査をした結果からこれらの問題は明らかでした。要介護者は女性が多く、男性のオムツ使用者の排泄の問題は少人数のトラブルとしてあきらめられていたのではないかと感じました。

そんな背景の中、今回のヒューマニーは、瞬時に尿を吸引してくれる。これでオムツの男性の外漏れは解消されるのではないかと大きな期待感を抱かせたのでしょう。

そこで、男性のパッドを成功させるためのポイントを考えてみたいと思います。

ヒューマニーを男性に利用するためには最初に述べた男性の課題に応じた使い方(パッドの当て方)を工夫しなければ採尿はうまくできません。

陰茎部のサイズに応じた当て方 尿道口がどの位置にあるのか、また尿の流れがどのように流れ

てパッドの吸引部分にいくのかを見極めること。つまり、性器の先端(尿道口)をどの位置にあてるのがポイントになります。性器の長さが短く、体の大きい方ほどパッドあて位置の調整が難しくなるようです。

男性 パッドの真ん中(折れ目)が尿道口にあたるようにあてます。女性用の長さや幅によりパッドの当て位置は異なります。



本人にとって心地良い当て方 本人にとって陰茎部の位置が心地よい位置にあることは極めて大切なようです。不快感はいじりの原因となります。従って、これまでのオムツの使用状況は大切な情報源です。貝巻きをしていた方は突然に平たいパッドを当てると陰のう部やソケイ部に尿が流出することはとても不快となるようです。陰茎部を上向にするのか下向きにするのかなども大切な要因のようです。サイズだけでなく、これまでの排泄習慣なども影響します。決った当て方ではなく、百人百様に個々に応じて見極める必要があるようです。

お試しで、見極めること 失敗の原因を明らかにすること。どのように当てて、どのように漏れたかは大切な手がかりになります。(これは女性の場合も同様です。女性も体型が異なります。太っている人も痩せている人も同じパッドを使うのですから正しい位置に吸引面があたるようにすることや夜間の体位変換や移乗動作の際にパッドの位置がずれないように配慮することが必要になります。)

*図 1 は介護の現場で工夫をし、実際に成功している使い方の工夫例です。詳しくはNPO事務局大山までお問合せ下さい。

褥瘡を予防する姿勢
手作りクッションでのポジショニング
NPO 福祉用具ネット会員 (理学療法士)
杉町 直子

下肢全体へのクッションの挿入

褥瘡予防として効果の見られた仰臥位のポジショニングの一例を紹介させていただきます。

一日を通してベッド上で臥床している60代の男性、Aさんは高機能タイプエアマットレスを使用されていました。ある時、介護者の妻から、「肩がピクピクしているのは、エアマットの影響でしょうか？」と相談を受けたことから、ケアマネージャーさん、担当看護師と話し合い、浮遊感がなく身体が安定した状態で寝心地が改善できると予測したハイブリットエアマット“P - Wave”に変更する事になりました。

“P - Wave”導入後、ご本人から寝心地は「良い」と確認でき、妻の観察にて「ピクつきが減った様子です」とのこと。リハビリ訪問中には、頸部から肩周囲の筋緊張の落ち着きを確認できました。マットの変更をご夫婦とも喜ばれていました。

しかし、変更後に皮膚トラブル発生。腓骨頭～腓骨近位部に発赤が出現したのです。妻としては、以前使用していた高機能タイプエアマットレスに戻すことは望まなかった為、ポジショニングで対応する事を提案。

このような経過の中で、下肢全体にクッションを使用する事になりました。

Aさんは、時折、痙性が出現するものの四肢～体幹の筋力低下が著明で、全体的に低緊張の状態です。発赤部位が腓骨頭～腓骨近位部であるという事は、筋肉が弛緩している状態で股関節の外旋位を長時間とっていると判断しました。この場合、ウェーブタイプのクッションの溝にしっかりと両下肢をのせることで、股関節の外旋が抑制でき、腓骨頭～腓骨近位部への圧が分散できると考えました。

実際の方法として、ポジショニングクッション“アルファプラ・ウェルピー”(タイカ社製)のウェーブタイプを参考にし、75×65cmの長方形のクッションを作成。中材として、手芸屋さんで購入できる「わた」「ビーズ(極小)」を混合して使用。割合は大まかに半量ずつ。生地は少し伸縮性のある綿を使用しました。縦に区切りが四つ、溝が三本出来ます。この両端の溝に左右の下肢を乗せます。そして、真ん中の溝をつまんで持ち上げると下肢を内外側からすっぽりと包み込むこととなります。これで、股関節が楽に中間位を保つことが可能となります。

すぐに効果が現れ、腓骨頭～腓骨近位部の発赤は消失。経過は良好でした。

フュージョンの活用

ウェーブクッションを使用して初めての夏を迎える頃、体温調節の難しいAさんの体温は時折、37度台まで

上昇。下肢全体を包み込むウェーブクッションが体温上昇に影響するのではないかと心配された妻からクッションの使用を継続するかどうかの相談を受けました。

“ウェルピー”の商品には表面生地が通気性に優れた“メッシュタイプ”がありますが、今回の事例では、表面に旭化成の立体編物フュージョンを使用しました。このフュージョンは、クッション性、通気性、耐久性に優れた立体編物です。

ポジショニングクッションを継続する為には通気性の良い環境が必要と考え、フュージョン(厚み8mm)を個別で購入していただき、クッションと下肢の間に挿入する事になりました。その結果、体温の上昇への影響についてははっきりしなかったものの、妻は安心してウェーブクッションを使用してくださいました。実際、フュージョンと下肢の接触面はさらっとしており、熱のこもりは軽減されていました。

現在の状況としては、あまりの猛暑のため、クッション装着時間は短くなっています。平日は様々なサービ担当により体位交換が行われるためにクッションなしで経過。ご家族だけでケアを行う休日のみクッション使用となっています。

*フュージョン(110×85cm)は約3500円でした。



実際の事例に使用したウェーブクッションとフュージョン



早速、この情報から、他の事例にタイカ社製アルファプラ・ウェルピーを試してみました。ポジショニングクッションとして、とても使いやすい一品としてマイチョイスに追加。(事務局大山)

今、思うこと。「福祉用具の開発に王道なし」

(その23)

九州日立マクセル(株) 技師長 坂田 栄二
(NPO福祉用具ネット理事)

その後のP・Waveは

この「ささえ」28号で、初めてのHCR(国際福祉機器展)にP・Waveを展示し、2,000名近くの来場者に見ていただくことが出来たことをご紹介した。

まったく新しいコンセプトのエアーマットが大きな反響を得て、注目されたことはNPOのメンバーにとって大きな自信となった。

しかし、その反面、プロの目に晒され、沢山のご意見をいただいたことも事実であった。

“これではまだ売り物になってない”とメンバーを叱咤激励する大山。一方で、来年の展示会に出展する新しいテーマ探しも要求する。その新テーマの1つが、前号までに紹介した車いす用体重計であった。

今号から、床ずれ防止用ハイブリッドエアーマットP・Waveの商品化までの細部の改良について、その後どうなったかに話を戻そう。

今どき、塩ビ?

HCRの会場で、大手の福祉用具販売会社から指摘された最も大きな点は、キュービックセルが塩化ビニール製であったことだ。

「これはいい商品ですね!寝心地も良いし…」と納得してくれたので、メンバーは“やったー”と喜んだのだが、
「私どもは、塩ビを使った商品は扱いません。この点を改良してくれたらいいのですが。」
と言って、名刺を置いて次のブースに行ってしまった。
そのときに、坂田は、
“しまった!今、世の中は「脱塩ビ」の方向に動いている。しかし私たちは値段優先に考えてしまっていた。”と悔やんだ。その心の中には、“これくらいは良いんじゃないかあ”という甘えもあった。

安い塩ビは問題だらけ

確かに、塩ビ製はコストが安いし、他のエアーマットメーカーでも使用しているところがある。しかし、塩ビ製は、最初の試作品を大山が初めて寝て体感したときに指摘したとおり、体を動かすと「カパカパ」とプラスチックの音がする。おまけにエアが注入されて膨らむとき「パカパカ」音もする。

冬の室温が低いときは、ことさら大きな音になるし、夏の暑いときは、妙に変形してエアセルのキュービック形状が保たれない。

では、代替りの素材としてどんなものが有るか。RO

HO(口ホ)のような黒いゴムを採用することも出来る。しかし重量を計算してみると、かなり重くなり介護者が簡単に取り扱いえないことが判った。

行き詰った松原は、この道のベテランの設計の帰山に相談することにした。

「松原さん、そりゃ簡単だよ。ウレタンが良いよ。」
「そうか!やっぱりウレタンしかないか。」

内緒のウレタン試作

実は、松原は、大山にこっそりとウレタンでも試作をしていたのである。

“また、いらんもん(無駄なもの)を作って!”と言われるのがいやで、内緒にしていた。それは大阪の試作屋さんのお勧めでもあった。しかも、帰山の賛同も得られたので一層意を強くしたようだ。ウレタンゴムは塩ビに比べるとやはりコスト高である。大阪の試作屋さんのお勧めとはいえ、ウレタンゴムを試作するには、ウレタン原材料を100mの長さで注文しなくては行けない。松原が必要な長さは5mにも満たない。たかが試作とはいえ、かなりの出費になる。しかし試作屋さんは、松原の福祉に対する思い入れに感動し、

「いいよ、必要な分だけお金を払ってくれば、残りは私の手出しで持っとくから。私も、年だし、福祉でみんなに貢献できれば…」
と気前良く試作をしてくれていたのである。

いつの間に作ったんね

松原は、こっそり作っていたウレタンゴム製のキュービックセルで試作を進めた。業界では誰もまだ採用していなかったウレタンゴム製である。

「坂田、出来たぞ!見てくれんか。」
そういつてきたのは、余り日にちを置かなかった。

松原がこっそり試作をしていた事など知らない坂田は、怪訝そうに、
「えっ!いつの間に作ったんや。」

「そりゃ、内緒たい!」
松原は、子供のようにニヤッと笑みを浮かべて坂田に寝てみるように促した。

こりゃ良い。確かに、ゴワゴワ感やパカパカ音が無い。きっとお客様も満足してくれるに違い無い。

「大山さんは、このことを知ってるの?」
「いいや、まだ言ってない。」
「すぐ言おうよ。」

坂田は、大山にすぐに言うのをためらっている松原を説得して連絡をとった。

翌日、事情を聞いた大山がやって来た。
「どれね(どの試作品ね)。いつの間に作ったんね。」
相変わらずの口調である。松原は何も言わず、マットを指差した。大山は、ベッド上にセットされたマットの上に靴を脱いで乗りあがった。一見何の変わり映えもしな

い外觀である。

「こりゃ、すごいわ。変な音が無くなっちょう(無くなっている)。どこを変えたか？」

おこられるのを覚悟したのか、松原は恐るおそる

「セルをウレタンに変えたんたい。」

「ウレタンち、なんね？(ウレタンとはどういうものですか?)」

「ゴムみたいなもんよ。」

「へえー……。ウレタン……。」

判ったのか判らないのか、大山は、何度もうなずいた。この繰り返しのうなずきは、大山が満足したときにいつも採るしぐさである。松原は、そのことを良く知っており、「これは怒られずに済むな！」と感じて、誰に言うともなく小声で、

「実は、内緒で作っていたんだよ。ちょっとお金がかかったけど……。」

「良いよ！良いよ！こんな良いもん(もの)が出来るんだったら。さすが松原さん！すごいね松原さん！」いつになくハイテンションの大山であった。大手販売会社から突きつけられた最大の基本的な課題がクリアできそうだと大山は感じ取っていた。

横にいた帰山は、

「ウレタンは、丈夫だし、針で刺しても、自分で針孔をシールするんで、パンクすることもないし。」

と、ウレタンのよさを解説し始めた。しかし、このことが大山に火をつけた。

「そんだけ判っちゃんだったら何ではじめから、そうせんかったんね(そのようにしなかったのか)。そうしたら、あの会社もすぐに満足してくれたんに(くれたのに)。」その言葉は、いつもの大山に戻っていた。

腰が曲がって眠れない！

HCRが終わって3ヶ月ほど過ぎた。

いろんな改良が、開発メンバーによって総がかりで進められた。

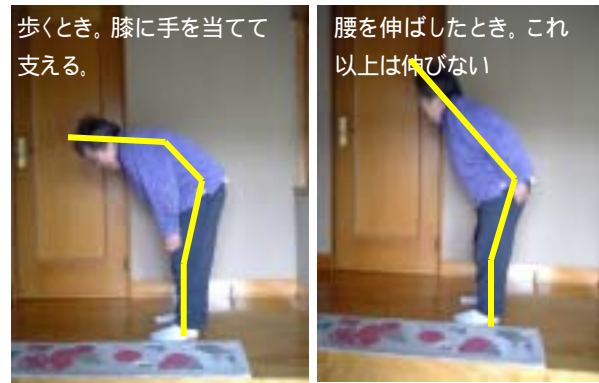
いつもの週末の打合わせの会議で、坂田がプロジェクターで写真を映し出した。そこには腰の曲がったおばあさんが映っていた。

「先週、一番新しい試作品をこのおばあさんに1週間ほど使ってもらったんだ。そしたら、すごく喜んでくれた。何故かって？」

坂田は、みんなの関心が高かったので、詳しく説明を始めた。その内容は次の通りだった。

このおばあさんは、82歳で、日ごろは、シルバーカー(四輪の歩行補助器)で散歩できる人なだけで、腰が曲がっているし、円背もある。夜、寝るときは腰が曲がっているんで、仰臥位がとれない。

この曲がった背中では、まっすぐに伸ばすことが出来ない。ぎゅーと伸ばせば気持ち良いのではと思うのだが、逆に伸ばすと丸い背中が痛いそうだ。そのために



上を向いてまっすぐには寝られない。夜中に、寝返ることは背中が邪魔して出来ない。そこで常に横を向いた側臥位で寝ることになり、大転子部分に床ずれの前兆がおきている。寝返るときは、一旦起き上がり逆向きに向き直り、それからまた寝なおす。これを夜中じゅう繰り返すので、いつももうとうとして、深く眠ったことがない。そのため、慢性の寝不足で、昼間は頭がぼーとした感じがするという。このおばあさんは、お百姓さんで、60歳を越えたころから、腰が伸びなくなった。このため20年近くぐっすり寝たことがないと言う。

そこでP・Waveを使ってもらおうと、仰臥位で寝れた。ぐっすり眠れるので、夜中にいつ寝返っているのかも判らないほど快適に眠れるらしい。

坂田は熱弁を続けた。

「1週間ほど経って、お会いしたら顔色もよく、お話しも滑弁だったよ。どうやらキュービックセルが背中の曲がりを吸収しているようだ。おまけに夜中のトイレに行くときも簡単に寝起き出来て、苦にならないと言ってたよ。1週間の約束でいやいやながらモニターしてもらったんだが、「もうしばらく使いたい」と言うんで、まだ試作品を回収できてないんだ。」

誰でも買える良い商品を！

坂田の説明が終わるや否や、大山は、

「回収はいいから、しばらく使ってモニターしてもらいなさいよ。また他のことが判るかもしれないから。」

「そうよね。年をとってくると、腰が伸びにくくなるよね。これまでP・Waveは寝たきりの人の床ずれ防止ばかりに注目して開発してきたけど、元気な高齢者にも使ってもらえるということよね……。すばらしー……。」

打合わせの出席者は、誰もが新鮮な驚きとともに幸せ感を持った。

しかし、このような元気高齢者は、介護保険が適用されないの、欲しくても値段の高いP・Waveを楽には買えない、という現実も知ることになった。

大山は、

「だから、誰でも買えるくらいの値段にしないとだめなのよ。もっとしっかり考えて作りなさいよ。」

といつもの叱咤激励である。(次号へ続く)



「P・Wave」の仲間として、(株)タイカから発売されました新商品「アルファプラ ソラ」です。よろしくお願ひいたします。(NPO 福祉用具ネット)

新商品のご紹介

【商品名】

床ずれ防止用ハイブリッドマットレス
「アルファプラ ソラ」

ハイブリッドマットレス「P・Wave」をベースに、現場の声をお聞きして「より使いやすく」「より分かりやすく」進化した新商品「アルファプラ ソラ」。

安定性と寝心地の良さを持つ静止型マットレスをベースに、リスクの高い腰部には新方式のエアセルを搭載。高度床ずれリスクの方を念頭に操作パネルやカバーに工夫を凝らしました。

発売元 (株)タイカ

【価格】

メーカー希望小売価格 198,000 円 (税別)

床ずれ防止には体圧分散+ケアが重要にもかかわらず、これまでのマットレスは体圧分散ばかりを求めています。医療やテクノロジーの進化にともなって常識も進化します。これからは、ポジショニングや介助のしやすさ、ご利用者の QOL などを総合的に考慮したマットレスをお選びください。

アルファプラ ソラは安定性と寝心地の良さを持つ静止型マットレスをベースに、リスクの高い腰部には新方式のエアセルを搭載。双方の利点を兼ね備えた、ポジショニングなど最新のケアがしやすいこれからのマットレスです。

オムツフitter 3級 in 福岡の研修会終了

9月17日・18日の2日間、オムツフitter 3級の研修会を開催いたしました。受講者47名。参加者の職種は理学療法士・作業療法士・介護・看護職・福祉用具専門相談員・福祉住環境コーディネーター・看護学生・福祉用具の開発者から排泄ケアに興味があり、特に資格を有していない方などさまざまでした。

受講者は地元の方よりも遠方の方が多く、遠くは東京から、広島・山口から九州各県まで、さまざまな地域から参加していただきました。専門職の皆様が、日常のケアにおいて、排泄ケアの課題に直面し、「より良いケアを学んで、少しでも心地よいケアを提供したい」との熱い想いに溢れる雰囲気の中で2日間の研修会が行われました。

研修会の内容は、オムツの選び方・当て方からのポイント、ポータブルトイレの選び方、移乗の方法、失禁や床ずれについてなどです。失禁の体験や事例検討もありました。各オムツの吸収実験も行いました。今回の研修会の開催にあたり、全面的にご協力いただいた【むつき庵】様にお礼を申し上げます。全国におよそ2,000人の3級のオムツフitterがおられるそうです。今回の研修会で新たに47名のオムツフitterが

誕生することになります。

(熱心に受講されておりましたので全員が試験には合格されたと信じています。)私たちの地域にもオムツフitterが誕生しています。少しずつ、オムツの当て方が変わっていくことに期待したいと思います。「たかがオムツではありませんよ～！」。

スタッフとしてご協力いただきました皆様にお礼を申し上げます。(事務局大山)



【いろいろなオムツの吸収実験を行っています】

事務局からの報告

平成22年度のもう後半となりました。あっという間に時間が経過していくことがとても怖いような気がします。後半も皆様のご協力をお願いいたします。

(事務局 大山)

平成22年7月から9月までの事務局の動き

福祉住環境コーディネーター協会主催見学会の企画運営

8月4日 シーホネンスショールーム見学

9月8日 TOTO本社工場と歴史資料館見学

今回は10月9日にクローバープラザの見学を予定しています。後半の部の企画を検討中です。

申込先は福祉住環境コーディネーター協会本部。

詳しくは、福祉住環境コーディネーター協会ホームページをご覧ください。

各種研修会

7月17日医療依存度の高い方のケアについて

50名参加

8月21日摂食・嚥下障害のある方への対応 パート2 応用編

48名参加

9月17日・18日オムツフィッター3級研修 47名参加

今後の予定は、西日本国際福祉機器展でのブースセミナーの開催を準備中です。

各企業からの開発相談や販路開拓支援・モニター試験などへの対応

対応した企業様は以下の通り。

ユニチャーム様 ユニ・チャーム ヒューマンケア様 九州日立マクセル(株)様 三ツ和金属(株)様 日本 PLANT INT(株)様 ロボフューチャー(株)様 龍宮(株)様

SORA がよいよ発売開始となります。

10月1日より(株)タイカ様よりP・Waveの OEM として「SORA」という名前で発売されます。P・Wave同様に会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

6月末の任期満了に伴う役員変更手続きのために法務局・福岡県NPOセンターに書類の提出など手続きを行いました。

平成22年度福祉用具研究会も後半に！

第3回目7月20日 動作と車いすの関係について

理学療法士 井内陽三氏 海尾美年子氏

第4回目8月17日 車いすの種類・姿勢保持の考え方

きさく工房 藤井 浩之氏

第5回目9月13日 事例報告

中島香寿美氏・井内陽三氏・杉町直子氏・藤井浩之氏

今回は10月20日予定 事例検討を行います。

11月が今年度最後の福祉用具研究会となります。

福智町高齢者体力測定も終了

福智町高齢者の体力測定は今年で5年目になります。西九州大学の村田伸教授の指導のもとチームの先生方や福智町、福智町社会福祉協議会の皆様とともに8月中頃から9月末までの期間、約300名あまりの体力測定を実施いたしました。

書籍出版の報告

「ウェルビーイングからの生活環境づくり」

豊田謙二理事長の編集で、これまでの福祉用具研究会やNPO福祉用具ネットの研究や活動についてまとめた本がナカニシヤ出版より発売されました。

執筆者は NPO 福祉用具ネットの関係者の皆様です。

お忙しい中、執筆にご協力いただきました皆様有難うございました。

書籍購入に関するお問合せはNPO福祉用具ネット事務局へ



西日本国際福祉機器展に出展・セミナーも開催。

日時：平成22年11月11日(木)～13日(土) 3日間

場所：西日本総合展示場 新館

NPOのブースへの出展社：九州日立マクセル(株)

ユニ・チャーム ヒューマンケア(株) (株)タイカ 三ツ和金属(株) 日本 PLANT INT(株) ロボフューチャー(株) 龍宮(株) 福祉SDグループ 福岡県立大学福祉用具研究会 別府リハビリテーションセンター

NPO ブースセミナー内容：

腰痛対策講座 介助技術と福祉用具の活用

講師 別府リハビリテーションセンター PT・OT

摂食・嚥下障害の方の介護のポイント

講師 別府リハビリテーションセンター ST

口腔ケアの実際

講師 医療法人康和会アイ歯科柏ノ森 木村照美氏

いつまでも美味しく食事をいただけるためには

～介護者のための口腔ケア講座～

講師 医療法人康和会理事 歯科医師 中園洋大氏

床ずれ防止用具の選び方

講師 佐賀大学医学部准教授 松尾清美氏

その他、「新しい排泄ケアの提案 尿吸引ロボ ヒューマニーの上手な使い方について」や「ロボットス

ーツ HAL でリハビリサポート HAL の紹介」など

* 日時などに関する詳細は西日本国際福祉機器展チラシをご参照下さい。